



## 學會彙報

雑誌名	漢文學會々報
巻	7
ページ	94-95
発行年	1938-03-17
URL	<a href="http://doi.org/10.15068/00146848">http://doi.org/10.15068/00146848</a>

## 學會彙報

## ○第二回研究發表會

十一月十三日(土)午後一時より、本學會議室に於て左の如く開催、聽講者五十有餘名、盛會であつた。

## 一、開會之辭

學生

古澤未知男君

## 一、太極論を中心として

學生

内藤由己男君

## 見たる朱子學陸學

學生

松下忠君

## 一、五典考

學生

松下忠君

## 一、儒教を通じて見たる

學生

植田袖君

## 一、批評

會長

諸橋教授

## 一、閉會之辭

學生

古澤未知男君

## ○秋季講演會

十二月四日(土)午後一時より、本學會議室に於て左の如く

開催せられた。諸橋、内野兩先生を始め、田波、市川先輩

其他學生等三十有餘名の出席を見、講師の眞摯な熱辯に感

動された。

## 一、開會之辭

學生

古澤未知男君

## 一、講演

演題 我國現下の情勢と儒教思想に就て

宇田 尚氏

(概要は大凡左の如くである。)

實業界に働く者の信念からお話する。儒教の倫理思想が如何に實生活を支配してゐるかを感得せねばならぬ。思想的立場からお話すると、世界の思潮の流れには大きな二つの流れがある。即ちローマ法ギリシヤ思想に根源を有する思想と東洋思想とである。前者には(1)歐洲の資本主義思想(2)米國に於ける思想の動向、(3)コミンテルンの思想等があるが、何れも權利を主體とする思想である。將來の第三文明の建設は義務を主體とする思想、即ち皇道主義によらねばならぬ。故に思想に於ては日本が先づ盟主でなければならぬ。之は、日本に於ては牢固たる中心が存在してゐるからである。儒教の理想的人格は聖人であるが、之は我國に於て見ることが出来る。孔子の教學の大部分は天皇が御採用になつて始めて出来るのである。明治維新が些かの段階もなく遂行されたといふことは注目すべき事で、實に我國が儒學の倫理的體形を採り、徳川三百年の間之を鍊磨したに依るものである。

## 一、閉會之辭

會長

諸橋教授

○第三回研究發表會

一月二十九日(土)午後一時より本部第一會議室に於て開催、三十有餘名の出席があり、要項左の如し。

- 一、開會之辭 學生 上原好一君
- 一、朱子に於ける太極と  
理氣の關係 學生 坂柳 董 麟君
- 一、四家詩源流考 學生 吉田 元 定君
- 一、永明聲韻說 學生 陳 蔡 煉 昌君
- 一、批評 內野 敦 授
- 一、閉會之辭 學生 上原好一君

會報第五號所載以降會計報告

(自昭和十二年二月廿六日  
至昭和十三年三月五日)

收入之部

- 繰越金 一四五圓六七錢
- 會費及寄附金 二九四・〇〇
- 會報賣上代 七・五〇
- 貯金 利子 一・五八
- 學友會補助金 三五・〇〇

合計

四八三・七五

支出之部

- 會報第五號印刷代 一三三・一四
- 同右諸雜費(發送)其他 八・四一
- 會報第六號印刷代 一四〇・〇〇
- 同右諸雜費(發送)其他 九・四五
- 通信費 二〇・二九
- 講演會研究發表會費 二五・〇三
- 講師謝禮其他 一二・九五
- 茶 菓 代 一・二六
- 交通費 一・九一
- 用紙代 五・〇〇
- 小使謝禮(二回分) 一〇・八五
- 振替口座加入諸費

合計

三四八・二九

差引殘高

一三五・四六